

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果の分析から

子どもたちに育てたい「学びの姿」について

真鶴町教育委員会

真鶴町では町の子どもたちの学習の理解度や学習に対する意識、生活習慣等（総じて「学力」）を把握し、子どもたちへの教育指導の在り方や学習状況の改善等に役立てることを目的として、全国学力・学習状況調査の結果の分析を実施しております。

そこで、今年度も真鶴町教育委員会では、まなづる小学校・真鶴中学校とともに検証委員会を設置し、標記調査を中心に真鶴町の子どもたちの学習状況について分析をしました。その分析から見えてきた真鶴の子どもたちの良さと課題、課題を改善するための手立て等を保護者の皆様にお伝えいたします。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析から見えた、

### 真鶴の子どもたちの特徴的な良さと課題について

調査実施日：令和4年4月19日 調査対象学年：小学校 6年生  
中学校 3年生

### 今年度の調査でよくできたところ

小学校・中学校共通	
意識調査	<ul style="list-style-type: none"><li>・「いじめは、どんなことがあってもいけない」と考えています。</li><li>・学校に行くことや友達と協力することが楽しいなど、充実した学校生活を過ごしています。</li></ul>
小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>・質問の意図を捉えて聞くことができていました。</li><li>・登場人物の心情を読み取ったり、文章表現の効果について考えたりすることは、全国平均の正答率と近い正答率でした。</li></ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"><li>・4桁×1桁の掛け算の計算は正確にできていました。</li><li>・割合や比例の問題は、全国平均の正答率と近い正答率でした。</li></ul>

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察内容から問題解決の筋道を考えることが、よくできていました。</li> <li>・ 現象から問題を考えたり、適切に実験結果をまとめたり観察・実験における思考力等を問う問題が、できていました。</li> </ul>
意識調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝食の喫食、起床・就寝時刻の安定など、生活習慣が確立しています。</li> <li>・ 家庭学習を計画的に行っている児童が多いです。</li> </ul>
<b>中学校</b>	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語の展開を捉える問題は、全国平均の正答率よりも高い正答率でした。</li> <li>・ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題は、全国平均に近い正答率でした。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「データを活用」に関する問題は、全国平均の正答率よりも高い正答率でした。</li> <li>・ グラフをもとに問題解決する方法を説明する問題は、全国平均の正答率よりも高い正答率でした。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物体に働く重力とつりあう力を選択し、その力について説明する問題は、全国平均の正答率よりも高い正答率でした。</li> <li>・ 理科の事象を日常生活でも捉えることができている生徒が多いです。</li> <li>・ 絵や図などから考える問題が比較的得意です。</li> </ul>
意識調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の夢や目標を持っている生徒が多いです。</li> <li>・ 地域の活動を通して地域に貢献しようとしている生徒が多いです。</li> <li>・ 主体的・対話的な学習姿勢が意識されています。</li> </ul>

### 今年度の特徴的な課題

<b>小学校・中学校共通</b>	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章を書くことに苦手意識がある。</li> </ul>

意識調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段 1 日当たりのゲーム時間が長いこと。</li> </ul>
小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記述問題での無回答率が高い。</li> <li>・ 問われていることを理解することに課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 後半にかけて回答率が減少している。</li> <li>→ 最終問題までたどり着けていない。</li> </ul> </li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的知識をもとに思考・判断・表現することに課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 概数で計算し、おおよその金額を算出する。</li> <li>→ 数量が変化しても割合は変化しないことを回答する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>等の問題の正答率が低い。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 問題読解に課題がある。(理由は国語と同じ)</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験結果をもとに考察を記述することに課題がある。</li> <li>・ グラフから思考・判断・表現することに課題がある。</li> </ul>
意識調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマートフォンやコンピュータなどの使い方の約束を守っている児童が少ない。</li> <li>・ 1日の読書時間が短い。</li> </ul>
中学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な知識・理解に課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 助動詞に関する理解。 → 「引用」「比喩」の理解。</li> <li>→ 言葉の意味理解。 → 行書の特徴の理解。</li> </ul> </li> <li>等の問題の正答率が低い。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な知識・理解に課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 素因数分解ができる。 → 「反例」の意味の理解。</li> <li>→ 変化の割合から 1 次関数の表を選ぶ。</li> </ul> </li> <li>等の問題の正答率が低い。</li> <li>・ 数学的事象を文章で説明することに課題がある。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な知識・理解に課題がある。</li> <li>・ 資料を読み取り、考えることに課題がある。</li> </ul>
意識調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活習慣が確立されていない。</li> <li>・ 計画的に家庭学習にとりくんでいる生徒が少ない。</li> </ul>

# ☆学力向上に向けた各学校での取組☆

分析結果を受け、各校で次のような取組を考え実施します。



## 小・中学校でつなげる

### 共通の取組

#### ○子どもたちが主体的に学ぶ授業にするため、校内研究の充実を図ります。

※「校内研究」とは…学校の教職員が、各自の授業力の向上や、学校全体で行う教育活動の改善を目的に、相互で実践を提案・分析し合う研究会のことです。

##### (小学校での取組)

- ・児童が友達と関わり合いながら粘り強く学ぶことができるように、「他者の考えを受け止める力」、「情報の取捨選択を行う力」、「自分の考えとつなげて表現する力」の育成をめざします。
- ・そのために「やってみよう!」という主体的な思いを児童にもたせ、問題解決の過程で必要な情報に出会わせることで、それをどう生かすかを教えたり、考えさせたりする授業をめざした「授業研究」を行います。

##### (中学校での取組)

- ・個々の生徒への支援をクラス全体に広げることで、どの生徒にとっても分かりやすい授業を実現し、学びを豊かにしていくという「授業のユニバーサルデザイン」の考え方を大切にした授業改善に取り組みます。
- ・全職員が「授業のユニバーサルデザイン」の理解を深め、「わかる・できる・もっとやりたい」と実感できる授業をめざすとともに、「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」も大切にした「授業研究」を行います。

#### ○読書活動を推進します。(家庭との協力)

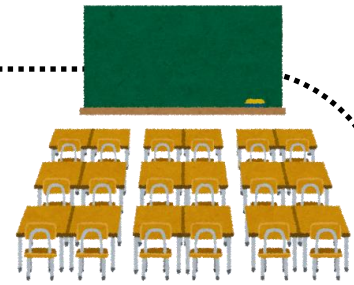
##### (小学校での取組)

- ・朝の読書タイムや読み聞かせを定期的に行い、本への出会いを設定します。そのうえで、読書週間を設定したり、週末に家庭で本を読んでもくる「週末読書」を行ったりすることで、家庭での読書習慣の確立も見据えた取り組みを児童の発達段階に応じて行っていきます。
- ・読書活動を生かして「帯づくり」や「ポップ作り」をしたり、「読書感想文」などを書いたりするなどの「書く活動」につなげていくことで、書く力の育成にも取り組みます。

##### (小学校での取組)

- ・毎日取り組んでいる朝読書の推進を今後も継続していきます。静かな環境で読書を行うことで、一日を落ち着いてスタートする習慣づけや、集中力の向上につなげていきます。
- ・家庭学習の計画書である「マナログ」を活用して、学習を促し、家庭でも読書をする時間が増えるように指導していきます。

# 各学校の独自の取組



## まなづる小学校

### ○文章を粘り強く読む児童を育成します。

- ・国語では、長い文章でもあきらめないで最後まで読むことを指導します。
- ・また、意味調べを行うことで語彙を増やし、場面を豊かに想像できる子を育成します。
- ・算数では、問題文を読み、場面を理解できるように絵や図を用いることを指導します。

### ○読み取ったり、考えたりしたことを表現できる児童を育成します。

- ・自分の気持ちや考え、分かったことなどを文章で表現する活動を大切にします。
- ・専門的な用語の指導を確実に言い、用語を使った説明等ができるよう指導します。
- ・問題を解いたり、実験を行ったりする手順等をわかりやすく説明するための指導を行い、表現する場面を積極的に設定します。

## 真鶴中学校

### ○生徒の書く力を伸ばします。

- ・漢字練習では短文を作ることで語彙を豊かにしたり、条件作文の小テストを定期的に行ったりして、漢字を使い、状況や相手を意識した文章が書けるよう指導します。

### ○基礎的知識の確実な習得ができるようにします。

- ・数学では、毎授業で1～5問程度の小テストを行います。
- ・理科では、新しい学習の際に既習事項の復習を行ったり、ペアで確認したりします。

### ○問題文から数式を考えられる生徒を育成します。

- ・だれにでも理解できる授業内容にしたり、ICT機器を活用したりすることで授業のユニバーサルデザイン化を進めます。
- ・レポート課題を通して式を使った説明ができるように指導します。

### ○実験計画を立案したり、実験結果から考察できたりする生徒を育成します。

- ・授業の中で予想・実験・考察の流れを確立し、繰り返し指導します。
- ・日常的な内容の教材を用意し、学習したことを生活でも生かせるように指導します。

## 真鶴町教育委員会の取組

### ○各学校の学力向上に向けた取り組みを支援します

- ・支援員・専科教員などの人的支援や、ICT機器などの物的支援を今後も継続します。  
(他市町に比べ、児童生徒の比率に対し、多くの支援員が児童・生徒の支援に入っています。)
- ・一人一台端末を利用した学習の充実のため、学習ソフトの導入などの支援を行います
- ・職員に対する研修会を行ったり、研究会で助言をしたりするなど、学校の学力向上に向けた指導力の向上を支援します。

～子どもたちの「学ぶ力」を育てるために、

学校と家庭が協力して取り組みたいこと～

### ～特に大切にしてほしいこと！～

- ☆ 子どもたちと対話する時間を多くもちましょう。その日の出来事、学校で学んだこと、将来の夢について等、子どもたちの思いを受け止め、共に過ごす時間をつくり、対話をしてください。
- ☆ 家庭学習の習慣化に力を入れましょう。先生や保護者、子どもたちとよく相談をして、できることからステップアップして進めていきましょう。  
※「家庭学習がんばり週間（小学校）」や「マナログ（中学校）」など、子どもたちが自分の力で家庭学習を行えることをめざした取組は続きます。
- ☆ 本に親しむ環境（時間・場）をつくりましょう。本の読み聞かせや、家族で共に読書をするなど、本を通してのコミュニケーションを図ってください。
- 結果よりも、子どもたちが努力していること、頑張っていることの過程を大いに褒めましょう。
- 各家庭に配付した「みんなで守ろう 携帯・スマホ・ゲーム機等のきまり」を使って、ゲーム、スマートフォン等の使い方や使う時間などのルールについて、さらにスマートフォン等についてはフィルタリングの措置について、保護者と子どもとで相談しましょう。

※ ☆印は「重点項目」

◎さらに以下のことにも取り組んでいきましょう。

#### ～心身共に健康的な生活習慣を身に付ける～

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、子どもたちの生活リズムを整えましょう。
- ・ 読書の時間（「読み聞かせ」を含む）をつくりましょう。
- ・ 体を動かして遊ぶ、スポーツに親しむことができるような機会をつくり、子どもたちに運動する楽しさを味わわせましょう。
- ・ あいさつを気持ちよくできるよう、大人から進んであいさつをしましょう。

#### ～自尊心（自分を大切に思う心）を高める～

- ・ 子どもの「その子らしさ」を認めていきましょう。
- ・ 子どもたち自身が「自分で頑張れること」について考える機会をつくりましょう。
- ・ 子どもとの共有体験（共に過ごす、活動する）の機会を多くもちましょう。  
（一緒にいる安心感が子どもの心を育みます）

#### ～規範意識（きまりやマナーを守ろうとする心）を育てる～

- ・ きまりや約束を守ろうとする子どもの姿を認め、大いに褒めましょう。
- ・ 人と人のつながりが感じられる体験を増やし、子どもたちが感じたことを受け止めましょう。